６　「」 　─中世の歌論

18年度　近畿大学

★　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　又、幼き子のらうたきが、してそれとも聞えぬ事いひ出たるは、Ａはかなきにつけてもいとほしく、聞き所あるに似たる事も侍るにや。れらをばいかでかたやすくまねびもし、定かにいひもあらはさ　　１　　、只自ら心得べき事なり。又、霧の絶え間より秋山を眺むれば、見ゆる所はほのかなれど、Ｂおくゆかしく、いかばかり紅葉わたりて面白からんと、①限なく推し量らるる面影は、ほとほと定かに見んにも②優れたるべし。すべて心ざしに現れて、月を『くまなし』といひ、花を『妙なり』とほめん事は何かは難からん。③いづくかは、歌、ただものをいふに勝る徳とせん。に多くの理を籠め、あらはさずして深き心ざしをつくす、④見ぬ世の事を面影に浮べ、いやしきを借りて優をあらはし、おろかなるやうにて妙なる理を極むればこそ、心も及ばず詞も足らぬ時、Ｘこれにて思ひを述べ、わづか　　６　　が中に⑤を動かす徳を具し、鬼神をむるにては侍れ。

※これら……本文の前に説明されてきた、幽玄の姿を指す

問１　空欄　　１　　に入るのに最も適当な語句を次の中から選べ。

１　め　　２　ん　　３　じ　　４　めよ

問２　傍線部①は、なぜこのように言われているのか。その理由として最も適切なものを次の中から選べ。

１　霧の晴れ間から見えているから

２　筆者の性格がおくゆかしいから

３　主人公がまだ幼き子だから

４　夏山ではなく秋山だから

問３　傍線部②について、何が何よりも「優れ」ているのか。最も適切なものを次の中から選べ。

１　「月」や「花」よりも「もみじ」が

２　「春」、「夏」、「冬」よりも「秋山」が

３　「定かに見」ることよりも「推し量らるる」ことが

４　「まねび」よりも「自ら心得」ることが

◎問４　傍線部③の意味内容として最も適切なものを次の中から選べ。

１　いったい何を歌えば、普通の散文表現にまさることができるでしょうか

２　いったい歌のどの点を、普通の散文表現にまさるべき美点とするのでしょうか

３　いったい歌はどんな季節を歌えば、普通の散文表現をしのぐことができるでしょうか

４　いったい歌は普通の散文表現に比べて、高度な技術を要するものでしょうか

問５　傍線部④の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

１　昔のこと　　　　　　　２　未来のこと

３　見たこともない情景　　４　行ったこともない遠い国

問６　空欄　　６　　に入る語句として最も適切なものを次の中から選べ。

１　一字　　２　四字　　３　十七字　　４　三十一字

問７　傍線部⑤は、古今和歌集仮名序の「ちからをいれずして、あめつちをうごかし、めに見えぬ鬼神をも、あはれとおもはせ」などをふまえていると思われる。古今和歌集仮名序の執筆者として最も適切なものを次の中から選べ。

１　在原業平　　２　紀貫之　　３　藤原定家　　４　鴨長明

◎問８　本文で述べられている「歌」の特徴に合致しないものを次の中から一つ選べ。

１　一語で多くの感動を表現する

２　はっきりとは言い表さずに、しかも深い感動を言い尽くす

３　卑近な例を引いて、優美さを表現する

４　一見愚かで珍妙だが、その実きわめて合理的な精神を表す

【確認問題】

１　傍線部Ａ「はかなきにつけてもいとほしく」の意味として適当なものを次から選べ。

ア　取るに足りないことでもかわいく

イ　小さな声であるにつけてもかわいく

ウ　わからないことがたよりなく

エ　たよりないのがかわいそうで

２　傍線部Ｂ「おくゆかしく」の意味として適当なものを次から選べ。

ア　風情があって

イ　慕わしくて

ウ　色が美しく

エ　隠れた所が見たくて

【補充問題】

３　波線部Ｘ「これにて」の「これ」とは何か、本文中の語で答えよ。

（　　　　　）

【解答】

問１　２

問２　１

問３　３

問４　２

問５　１

問６　４

問７　２

問８　４

【確認問題】

１　ア

２　エ

【補充問題】

３　歌

【現代語訳】

　また、幼い子で愛らしいのが、片言で何かはっきり聞き取れないことを言い出すのは、取るに足りないことでもかわいく、聞く価値があるのに似ている点もあるでしょうか。このような幽玄をどうして簡単にまねしたり、明確に表現できましょうか、ただ自分自身で理解しなければならないことであります。また、霧の絶え間から秋の山を眺めると、見える部分はわずかであるが、隠れた所が見たくて、どんなにか一面に紅葉して趣深いだろうと、はてしもなく推量される情景は、ほとんどはっきりと見る山の姿よりも優れていることでしょう。だいたい心の中にある表現の意図がことばに表れて、月を（見て）『曇りなく澄み切っている』と言い、（あるいは）花を（見て）『すばらしく美しい』とほめるようなことはどうして難しいことがあろうか（いや何も難しいことはない）。歌のどこを、普通にものを言うよりも優れている長所と考えたらよいのだろうか。（歌は）一語に多くの意味を込めて（感動を表現し）、（ことばには）表さないで深い感動を出し切る、昔のことを面影に思い浮かべ、卑俗な題材をよみこんでも優美な趣を表して、いい加減なようであってこの上なく奥深い意味を極めるからこそ、（散文的な表現では）考えもつかずことばで表すこともできない時、この和歌で思いを述べて、わずか三十一文字の中に天地（の神々）を感動させるはたらきをもち、鬼神（の心）を和やかにする手段なのであります。